

凧あげ

2022.3.16

3月も中旬となった。年が明けて、今年はいいい年になりますよという万人の思いなど蹴散らすように、オミクロン株とやらが猛威をふるった。1月下旬から2月は、なぜか週末にPCR検査の結果が出るパターンが続いた。したがって、週末も学校に行くことになった。これは、本校だけではない。多くの学校がそうだったはずである。

もちろん、遠出などしない。出かけたとしても自宅と学校から近いエリアが私の行動範囲となる。いつだったか、感染状況が落ち着いたときにランチに出かけた。そこは、年配の方が3人で営む小さな店だった。自宅を改装したような佇まいだった。

メニューはAランチとBランチの2つしかない。こういった店には、そこを営む方の思いが至る所に現れるものである。それらに目をやり、思いを受け取るのが楽しみでもある。自然とキョロキョロと眺めるようになる。

その店の一角に凧があった。日本の凧である。凧らしい凧である。今では、あまり目にしなくなった。駄菓子屋さんに置いてあるイメージがある。その凧を見ているうちに、ふとある記憶が蘇ってきた。

我が家の長男は、2歳から4歳までの3年間をイタリアで過ごした。もちろん、日本の凧などない。ちょうど、身内が年末年始の休みを利用してイタリアに来てくれたことがあった。こういった方々は、異国の地で暮らす者にとっては貴重である。つついイタリアでは手に入らないものをオーダーしたくなる。

お正月ということで、息子へのお土産に日本らしいものをいくつかいただいた。その中に凧があった。息子は大喜びである。早速、ローマ日本人学校の校庭に行き、凧をあげることになった。この日は、快晴の穏やかな日だった。凧をあげるには不向きな日だった。息子は、そんなことはお構いなしに、校庭中を走り回り、凧があがるように、凧があがるようにとがんばった。しかし、走り終えればすぐに凧は情けなく落ちてくる。

仕方なく大人の出番となった。校庭中を半ば本気で走り、凧があればこれだけ高くあがるのだというところを見せた。息子ははしゃいでいた。疲れたが、よかった。この様子はビデオに収めておいた。コロナ禍が始まり、出かけない週末が続いた折に、イタリア時代のビデオを見た。そこには、凧をあげるために走り回る息子の姿があった。

たまたまランチに行った店のおかげで、昔の記憶が蘇った。たぶん、ビデオを見ていたせいもあり、記憶が上書きされているとは思う。何気ない時間なのだが、少しだけ懐かしく幸せな気分になった。